

関連科目，教科書および補助教材	
関連科目	経済学Ⅰ、財務会計論Ⅰ
教科書	「ビジネスマンのためのファイナンス入門」山沢光太郎（東洋経済新報社）
補助教材等	プリント（演習問題）
学習上の留意点	
<p>経営財務論は、数式を用いることが多いので、数列、微分積分などの必要な数学の知識は確認しておくこと。授業の時は、必ず電卓を持参すること。関数電卓ではなく、簿記用の電卓を準備すること。授業中は、寝ない。しゃべらない。メリハリが必要です。</p>	
担当教員からのメッセージ	
<p>専門科目に入ると、初めて聞く内容が増えてきて理解するのも大変になります。この講座では、教科書に出てくる難解な内容をできるだけかみくだいて説明したり、身の回りの具体的なものに例えて説明することを心がけて授業を行う予定です。進む進度もすこしゆっくりめに設定しています。</p>	

授 業 の 明 細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	0 ガイダンス 1 ファイナンスの種類	・シラバスから学習の意義、授業の進め方、評価方法を理解できる。 ・ファイナンスの特徴	(予習) どのような場面で適用できるかを理解すること (復習) 課題や授業終了後の練習問題にて理解すること。
2			
3	2 ファイナンスの基礎概念	・お金の時間価値を理解できる。 ・単利と複利を理解できる。 ・機会費用を理解できる。 ・リスクとリターンについて理解できる。	(予習) どのような場面で適用できるかを理解すること (復習) 課題や授業終了後の練習問題にて理解すること。
4			
5			
6	3 資本調達方法と資本コスト	・資本調達に方法について説明できる。 ・資本コストの種類について説明できる。 ・加重平均資本コストが計算できる。	(予習) どのような場面で適用できるかを理解すること (復習) 課題や授業終了後の練習問題にて理解すること。
7			
8	中間試験		
9	答案返却・解答解説 4 投資意思決定	・試験問題の解説を通じて間違った箇所を理解できる。 ・投資決定のプロセスについて理解できる。 ・回収期間法とその問題点を理解できる。 ・正味現在価値法と問題点を理解できる。 ・内部利益率法と問題点を理解できる。	(予習) どのような場面で適用できるかを理解すること (復習) 課題や授業終了後の練習問題にて理解すること。
10			
11			
12			
13	5 資本構成	・資本構成と資本コストの関係を理解できる。 ・レバレッジ効果について理解できる。 ・MM理論について理解できる。	(予習) どのような場面で適用できるかを理解すること (復習) 課題や授業終了後の練習問題にて理解すること。
14			
	期末試験		
15	答案返却・解答解説 授業改善アンケートの実施	・試験問題の解説を通じて間違った箇所を理解できる。	
総 学 習 時 間 数			45時間
講 義			30時間
自 学 自 習			15時間